



ロータリー:
変化をもたらす

Rotary



CHINO



ROTARY CLUB OF CHINO WEEKLY

2017~2018年度国際ロータリーテーマ

茅野ロータリークラブ

茅野ロータリークラブ活動方針

「ロータリーの奉仕の進化と深化を楽しもう」

創立1981. 1. 26

2017 - 2018 会長 高見 恭司 幹事 勅使川原 一幸

Vol.25 1731 2018.2.7

高見会長挨拶

皆さんこんにちは

本日の唱歌は「かあさんの歌」を歌っていただきました。作詞、作曲は、窪田聡さん昭和10年、東京に生まれて現在は、岡山県、瀬戸内市に住んでいます。

窪田聡さんは、進学校として知られる開成高校に進みましたが、太宰治の「非社会的で倦怠感に、溺れた」生き方に憧れ、授業をさぼっては映画、たばこ、酒に溺れる日々を送っていました。

やがて進学が来ました。同級生たちのほとんどが、有名大学をめざす中彼は文学で生きていく決意を固め、親が準備した入学金・授業料をもって家を出してしまいます。

東京に出た彼は安い、下宿に隠れ住んで就職しましたが、そのかわり、音楽が好きだったので、中央合唱団の研究生になりました。しかし、給料が少なく食べていくのがやっとの生活で文学に、適進するどころではありません。

そのころ、共産党の人たちが中心になって進んでいた「歌声運動」に多くの若者が惹きつけられていました。彼もその1人で楽しそうにロシア民謡を歌う人びとの姿が、彼の目にはまぶしく映りました。とうとう彼は、文学を捨て共産党に入ってしまう。

そのころ、母親から小包が届き始めました。両親が心配し兄が彼の下宿を探し当てました。小包のなかには彼の好きな食べ物や、手編みのセーター、ビタミン剤など「体をこわさないように」といった母親の手紙も入っていました。

高校の同級生たちの多くが有名大学に入り、高級官僚や一流企業の社員になっていきました。彼はアコーディオンを抱えて、全国で歌声運動を指導しながら回る生活を続けていました。この歌はそうした生活のなかで、母親への思いと、疎開時代に見た長野県の信州新町の田舎の情景と重なって生まれた歌です。

最後に、「かあさんの歌」ではあります。2番の「おとは土間で薫うち、仕事」の部分に自分の勝手な生き方を、黙認してくれた父親への気持ちも込められています。

以上で、この歌の誕生秘話なり会長挨拶と致します。ご清聴ありがとうございました。



卓話

長崎寛文会員



仕事は、シンエツ電材株式会社という工業材料資材を販売する会社で37年前に設立しました。エリアは甲信越でしたので「甲信越電材」にしようと思いましたがゴロが悪いので「信越」にしたところ案の定山梨のお客さんは無くなりました。

一番初めに、NEC長野日本電気という大きな会社とお取引を開始したのが発足でしたが、昨年伊那工場を閉鎖してしまい、非常に残念でした。NECの製造部門が海外に進出したときに一緒に海外へ出ようと思ったこともありましたが、そのとき海外に出た会社はほとんどが業績も上げられず結局日本に戻ってきたので、行かなくて正解だったのかななんて思っています。その間、地元で取引先が増えましておかげさまで今は地元茅野でほとんど仕事ができるようになって来ました。

37年間の中にはいろいろな面白いこともいっぱいありました。取引先から納期までに納品出来ない場合は、自分でインドネシアに納品ということも何回もありました。インドネシアでは、税関でインボイスを見せても、「ノー」「ノー」とそんなものは見せなくてもいいと手を差し出します。50ドルから始まり10ドルまで値切って毎回払いました。何回も行くので「いいお客さん」で顔見知りになりましたがタダにしてはくれませんでした。今となれば怖いながらも楽しい思い出です。

当時、インドネシアへはシンガポールから船で島へ行くわけですが、行く先々で金銭を要求される場面がいっぱいありました。また、ホテルでは我々日本人は最上階で、次の階は韓国人、その次は他のアジア人で、その階のエレベーターの入口に小銃を持ったガードマンがいました。そこから上へは現地の人間は入れないことになっていました。ドア・ツー・ドアでホテルから工場まで行くのに契約したタクシーで行き、絶対道路を歩いてはいけなと言われていました。この国は「人を見たら泥棒と思え」ではなく「見たら泥棒だ」と言われたのが印象的でした。最近はそのようになって、自由に街も歩けるし、両替所も街角にあるみたいですが、最近行ってないですがまた行ってみたいと思います。

最近ロボットユニットの組み立てをさせて頂いており、自動車製造が好調で、さらに好調を予測されているのは車載機器の部分、特に自動運転関連の機器が忙しくなる見込みということでそうしたものに对应するべく取り組んでいます。それから「スマホ」関連が世界中では膨大な需要があり、外側の金属ケースを削るロボットのユニットも製造しています。茅野市でも好調な企業もあり、最近は何かがたく感じています。

製造業であったり、材料販売であったりですが、工業材料の資材には梱包材もありますので是非ご用命下さいますようよろしくお願いします。

※別紙幹事報告書

第2600地区ロータリーより地区役員への委嘱状



牛山武明会員
第2600地区
2018~2019年度会計監事

米山奨学生 爽さんへ2月分奨学金贈呈



長期交換留学生 茜ちゃんへ2月分お小遣い贈呈



ホストファミリー
矢崎勇人会員へ補助金贈呈

ニコニコBOX

人数
31人
金額
54,000円

- ◎高見恭司会長 爽さん、茜さんようこそ。卓話の皆さんよろしくお願いします。
- ◎柳澤孝男会員 2月23日で65歳になります。晴れて高齢者の仲間入りです。先輩の皆様よろしくお願いします。
- ◎藤澤武則会員 誕生日です。
- ◎堀江藤夫会員 会員卓話よろしくお願いします。
- ◎渡辺昌彦会員 子供たちのインフルエンザが治り元気になりました。僕には移らず元気で。

出席報告

会員数 56名
出席 47名
出席率 84%

卓話

坂田和男会員



私は、地域を代表する長野日報社という新聞社に入社しまして、長野日報社と言うと100人中99人は「新聞記者ですか」と聞かれます。しかし、私は、一度も記事を書いたことがない新聞社の人間です。まず、入ったのが広告局で、ここは広告で金を稼ぐ部署で、次は販売事業部で、ここは大変なところで、販売店の人達と部数ですったもんだするところで、お酒を飲まなければいけないということでほんとに辛かったです。ここも金を稼ぐところです。ということで、私は新聞社に入って新聞記事を書いたのは、「葬儀広告」で葬儀の記事を書いたくらいで新聞記者でもなんでもないということが世間にだんだん分かってきました。「諏訪湖マラソン」もこの事業部で、35年ほど新聞社にいましたがずっとお金を稼ぐ部署に在籍しました。7年前に、販売会社ということで、ここも部数を伸ばして金を稼ぐなければいけないということで、「新聞社」というイメージとは程遠いところにずっといました。

昨年、どうしても「縄文杉」が見たいということで「屋久島」に行ってきた。私は、歯を食いしばって歩くとか登るとかいうのは大嫌いなんですけど、どうしても行きたくなくて行って来ました。ガイドブックによると8~9時間かかるということでしたが、覚悟を決めて行って来ました。ここは、上高地と同じでバスで登山口まで行かなければならなくて、朝3時半頃起きて一番バスに乗って登山口まで行き、そこからトロッコの線路を2時間ぐらい歩きます。途中に集落の跡があって、小学校の跡とかそこで杉を切り出して生活していた人達の集落の跡地で、大正時代から昭和35年頃まで500人ぐらいの家族が住んでいた、と書いてありました。

その集落の跡地を見ながら延々とそのトロッコの線路を歩くんですが、「登山口」と書いてあるところからいきなり「登山」が始まるわけですが、このまま歩いたら「縄文杉」に会えるかなんて思っていたらとんでもないことで、その登山道がハンパな登山道でなく、全てが木道になっていて、そこを延々と3時間半ぐらい歩いてやっと「縄文杉」に辿り着くわけです。「縄文杉」はテラスで囲われていて直接木に触ることができないですが、その姿に圧倒されました。「縄文杉」を見て同じ道を帰って来ましたが、着いたらやっぱり8時間かかっていました。

その途中で驚いたことがありました。「ウィルソン株」という大きな木株での休憩で、ある夫婦と一緒にになりました。「どこから来ましたか?」と聞いたら「長野県から来ました」「私どもも長野県です」と、こりゃあ珍しいですよ。「長野県はどこですか?」と聞いたら「茅野市です」と言うわけです。「茅野市?」「我々も茅野市です」とさらに驚いたわけです。さらに、「どこですか?私塚原です」と聞いたら「中河原です」と。一緒に行った友人はチノモクの矢崎裕嗣氏で、「チノモクさんに襖をお願いしました」なんて、まさか屋久島で襖の話と塚原の話と中河原の話が出るとは。日本も狭いもんだと思いました。

卓話

堀江藤夫会員



会社名は、グランドクリエイト株式会社といいます。三井の森様にいつもお世話になっております。信用取引上法人化が必要ということで法人化をさせて頂きました。資本金は1円からでも設立できるということでしたが手持ちの10万円で設立しました。業務は造園業と林業です。

田中知事のときに林業再生ということで「きこり講座」を受講すると公共事業としての森林整備の仕事が請けられるということでした。その当時、東京から35歳のときに来ましてホテルの立ち上げに携わっていましたが、森が荒れているということに気がつきまして、またその頃環境問題も取りざたされるようになって来ていました。こういう荒れた森では、国定公園をひかえ、観光業が盛んなところで何か自分にできることはないのかなんかと思っていて、そんなときに田中知事が森林整備に力を入れようということでその一期生として1年間その講座を受けて森林整備に携わるようになりました。

行政も民有林の整備も進めてくださいということで地方事務所や市役所の林務課の方たちも手伝いに行くから是非やってください、といわれて民有林の整備を手がけようとした。が、まずは境界確認をしなければならぬとか非常に手間がかかって、実際に作業をするとかなり費用がかかってしまいました。その間伐をすることによって生産に少しでも戻せるということであればいいのしょうがなかなかそうはいきません。そのうちに大規模集約化ということで効率的に森林整備をするために、いままで個人の1haに満たないものも補助金がついていたのが30ha以上で排出間伐をしなければならぬという形になってきましたので、これは我々のような新参者で重機を持っていないような業者にはちょっと手がつけられないということでだんだん森林整備の方から遠ざかってしまいました。今は森林組合とか林業関係者とかから応援を頼まれたときには行くのですがそれ以外のときは造園業と三井の森様のような大手の別荘地の危険木の除去の仕事が忙しくなってきたので森にはちょっと入れないような状態になっています。

ここで10数年やってきまして、先日の日曜日、山梨の業者仲間とところで勉強していた原村の若者が独立したいと相談されました。しかし、個人がちょっと木を切るのを覚えて林業に携わろうというのは、回りを見回しても日本は国土の80%は森林なので本当に宝の山に見えるのですが、それを本当に生かせるようにするにはそれなりの技術とそれなりの資本と循環させることができる林業としてのシステムがないとなかなか難しいと今実感しているところです。独立した若者になかなか良いアドバイスができませんでした。

ここでまた補助金が5年間出されることになりましたので、私も改めて林業を考え直してなんとか少しでも力になればと改めて思い直させられましてこれから少し頑張ってみようかなんて思います。